

第1回 県立丹波並木道中央公園あり方検討会 議事要旨

1 日時 令和6年10月25日（金）13:00～15:50

2 場所（視察） 丹波並木道中央公園 園内
（協議） 丹波並木道中央公園会議室

3 出席者

澤木昌典委員、奥岸明彦委員、角谷慶治委員、北川敦雄委員、北川美佳委員
谷垣友里委員

4 内容・議題

- （1）現地視察
- （2）丹波並木道中央公園について
- （3）県立都市公園のあり方検討について【自然環境保全】
- （4）県立都市公園のあり方検討について【活性化】
- （5）その他

5 要旨

（1）現地視察

丹波並木道中央公園管理事務所（以下、「管理事務所」）が現地を案内。主な説明事項・質疑応答は下記の通り

① 公園管理事務所

- ・会議室、授乳室、ロビーなどを備えている。（管理事務所）

② サイクルステーション

- ・兵庫丹波チャレンジ200の拠点施設として整備された。木造平屋建て面積約160㎡。トイレ、フリースペースの他、更衣室やシャワー室を設けている。利用者は1日40名～50名（管理事務所）

③ かやぶき民家

- ・平成19年の開園に合わせて大山地区から移築された。江戸末期には建築されており郵便局としても使われていた。お茶に関するイベントやデイキャンプ、和室に吊った蚊屋に昆虫を放す「いどうこんちゅうかん」等の取組みを実施している。（管理事務所）

④ あおぞら広場

- ・平成23年に公園敷地内から恐竜の化石が発見されたことを機に、令和3年には恐竜をモチーフにした遊具が設置されている。その他、漆喰で塗られた休憩施設の「かぐや」や藁などを焼いて肥料を作るための「灰屋」（はんや）がある。（管理事務所）
- ・法面が目立つが、何かする予定があるのか。（澤木委員）

- ・造成法面が残ってしまっている。(事務局)

- ・現在は網が張ってある。(管理事務所)

⑤ 森林活動センター

- ・園内の樹木を健全な状態に保つために間伐しており、その間伐材を製材して公園の遊具やテーブルベンチ等を制作している。木工教室プログラム等も実施している。施設前にある広場では、令和3年に恐竜をモチーフにした複合遊具が整備され、休日は親子連れで賑わっている。(管理事務所)

⑥ 森の広場

- ・移動しながら確認。特段説明は無し

⑦ 展望広場

- ・横に林道があり、茅葺き民家の裏まで続いている。(管理事務所)
- ・鹿などの獣害は発生しているのか(角谷委員)
- ・獣害柵を設置してから大きな被害はほとんどなくなった。(管理事務所)
- ・公園利用者は林道を使うのか。(谷垣委員)
- ・公園の利用者はほとんど使っていない。(管理事務所)
- ・間伐はどのような計画で実施しているのか。現在のペースで管理上問題は発生していないか。(澤木委員)
- ・年間何本という計画を立てて実施している。現行の管理で上手くいっていると認識している。(管理事務所)
- ・スギヒノキ以外のものを植えて植生を変える計画はあるか(奥岸委員)
- ・今のところ考えてはいない。(事務局)

(2) 丹波並木道中央公園について

管理事務所会議室に移動し、事務局より資料・要綱等の説明を実施。

委員全員出席のため定足数を満たしており会議が成立していることを事務局より報告。

委員の互選により澤木委員が協議会長に就任。

事務局より資料2、資料3、資料4について説明。

(質疑応答無し)

(3) 県立都市公園のあり方検討について【自然環境保全】

事務局より資料5に基づき説明。

○資料14頁の「工事とは」(谷垣委員)

○具体的には機械などを用いて木を切ることを示している。(事務局)

○資料2の5頁について、より具体的に説明頂きたい(北川敦雄委員)

○本来県の所管の公園だが、公募により、民間業者に公園の管理運営を委託する仕組みをとっている。(事務局)

- 公園に最も近い位置にいる管理者は県が委託する指定管理者である丹波の森協会という理解でよい。また本日の会議のコンセプト的には丹波の森協会の誰かがいるべきだと思うが、その点は管理事務所の所長がいらっしゃるので問題ないという認識で良いか。（北川敦雄委員）
- ご推察の通り（事務局）
- 丹波の森協会、兵庫県園芸・公園協会の共同体になります。（管理事務所）
- 指定管理者がもし変わる場合、当会議で検討した内容を引き継ぐことを担保する仕組みはあるのか。（北川敦雄委員）
- 公募時に公園の管理方法を示す仕様書を作成する。そちらに、当協議会で検討した内容を示す等の方法が考えられる。（事務局）
- 丹波篠山市との関わりはどのようなものがあるのか（北川敦雄委員）
- 森の円卓会議という公園の管理運営に関する協議体に市が入っており、そこで様々な意見を頂いている。（事務局）
- メンバーについては柔軟に検討することが必要であるとする。ちなみに当検討会は近年大幅に利用者が増えており、子育て世代の利用も多いという観点から、子育て関係や観光関係の方にもお越し頂いている。（事務局）
- 丹波篠山市に対して当該議論は共有されるのか（北川敦雄委員）
- 森の円卓会議で当検討会の結果を報告させて頂くので最終的には共有される（事務局）
- 検討事項というのは資料冒頭にある3つのことか。であるならば、公園のこれまでの整備方針やポテンシャルをあまり理解出来ていない中で議論するのは難しいと考える。そのため、今後の方針を作る際のベースとなる資料を示して頂きたい。（澤木会長）
- 第2回の検討会に向けて整理させて頂く。（事務局）
- この資料は事務局の素案が示してあるという理解でよろしいか。（谷垣委員）
- 素案ではなく、昨年まで全体会で取りまとめた内容をベースとした資料であり、この資料を発射台に検討を頂きたい。次回事務局で案を示させて頂く。特に樹木管理の方針等自然環境保全について、要不要含めご意見を頂きたい。（事務局）
- 承知した。お示し頂いたルールで樹木伐採に至るまでの過程が非常に煩雑であると感じたため、確認させて頂いた。（谷垣委員）
- 公園によってこれまでの経緯や様々な事情・特性があるので、丹波並木道公園に適した内容にしていきたい。（事務局）
- 当該ルールを実装している公園は、どこがこのルールに示された作業を行っているのか。（谷垣委員）
- 指定管理者が実施している。（事務局）
- 樹木伐採に関しては、その都度詳細な説明は出来なくとも、年度ごとに簡単に全体方針を説明する方法もあり得るかもしれない。全く説明しないことで逆に不信を招く可能性も否定できない（澤木会長）
- おっしゃるとおり年度当初等に方針や計画のみを報告する方法もあり得ると考える。（事務局）

- ゾーニング図Bには鳥類の営巣など生物が入る事もありえるか(澤木会長)
- ありえる。(事務局)
- 自然環境に篠山層群から採取した岩石などは含まれるのか。過去のゾーニング図にはそういうものが見られない。(谷垣委員)
- 造成前に調査した資料であると思われる。(土木事務所)
- 岩石についてもゾーニングに位置づけて頂ければよいと考える。(事務局)
- 自然保全的な意味でビオトープを拡充する、マント群集落等のエコトーンを形成するなど、より力を入れると言ったことは考えられるのではないかと思います。(澤木会長)
- サイクルステーション下の池(田漬池)に来園者が立ち寄ったりするのか(角谷委員)
- 池は水利組合が管理している。麓まで行けるデッキは管理事務所で管理しているがあまり訪れている感じではない。(管理事務所)
- あそこをもう少し活かせるような取組みがあれば良いのではないかと考える(角谷委員)

(4) 県立都市公園のあり方検討について【活性化】

事務局より資料6に基づき説明。

- 森の円卓会議で毎回非常に精緻な報告を頂くが、進捗状況を確認したり、様々な意見が出る場のような仕組みがあっても良いのではないかと考える。そういった意味で明石公園のみんなのみらいミーティングのような仕組みは良いと考える。(角谷委員)
- 進捗状況の他、公園の利用方法に対して意見を言う場として機能させることもあり得ると考える。ただし、指定管理者との調整が必要となるので、今後のやり方については事検討させて頂きたい。(事務局)
- 6頁の公園ボランティア育成講座について教えて欲しい。(澤木会長)
- 木工サポーターの方にボランティアとして作業頂いている。(管理事務所)
- 公園の新たなルールの検討では利用者を集めたワークショップを開催して公園利用に関する意見を聞いているのか。(澤木先生)
- 利用者の意見についてはアンケートで確認している。(管理事務所)
- ここを利用されている方が子育てふれあいセンターに来られることもある。公園内では子供の面倒を見ることに手一杯で、アンケートに答える余力がない方がいることが考えられる。そういった方が、私共の施設に来られた際に、公園に関するアンケートにお答え頂くと言うことはあり得ると考える。公園ではない別の場所と連携して利用者の意見を集める手法も考えられるのではないかと。(北川美佳委員)
- 公園利用者のうちリピーターの割合等のデータはとっているのか(澤木会長)
- データはとっている。丹波篠山市や丹波市、阪神間からのお客様が非常に多い。日常的に来られる方もいらっしゃる。(管理事務所)
- 街の中の公園は、自然とふれあえる場所と認識されており、皆さんあえてそこに行って走ったり歩いたりするが、この地域は全体が自然であるため、公園を利用するには特別な理由が必要である。この点が都会の公園と異なっており、その中でこれだけの利用者がいることは大変素晴らしいことだと考える。(北川敦雄委員)

- 恐竜遊具の整備やコロナ禍における公園需要の増加等も利用者の増進に大きく寄与したものと理解している。(管理事務所)
- 観光目線で言うと、城下町に観光で来られた方が集中するオーバーツーリズム問題があり、いかに観光客を分散させるかということが重要となる。問題解決の一つとして、市内の施設が持っている集客性に対し、この公園がどのような役割を担っていくのかということは一つ大きなテーマとして考えて行きたい。(北川敦雄委員)
- 並木道祭りはいかがだったか。(角谷委員)
- 非常に良かった。イベント自体も大変良かったが、何より管理が行き届いており、公園が非常にきれいな状態に保たれていることに感銘した。(北川敦雄委員)
- 並木道祭りは昨年 8,800 人来られた。今年は天候の影響などもあり 7,500 人程に減少したが、10 月の丹波篠山に多くの方が来られる時期であり、最終日などはひっきりなしに来園があった。(管理事務所)
- この地域は 10 月 5 日頃から 11 月の連休まですごい人数の方が訪れる。(北川敦雄委員)
- 丹波篠山に訪れる方は当公園に何を求めて立ち寄られると考えられるか。(澤木会長)
- 子育て世代からすると丹波篠山の城下町は大人っぽすぎて、子供が楽しめないため、公園に立ち寄って遊ばせるということがあるのではないか。(谷垣委員)
- どんぐりぐらいは持って帰っても良いのではないか。(角谷委員)
- 現行のルールでは難しいというのが回答になる。(管理事務所)
- マルシェの回数を増やすということも考えられるのではないか。それをきっかけにリピーターになって頂くということも考えられる。この会議は中身より仕組み作りが大切な場ではあるが、中身のアイデアについては今後もどんどん出して頂ければと考える。(澤木会長)

以上